



岡本玲  
女優

おかもと・れい 1991年生まれ。和歌山県出身。テレビ東京系ドラマ「執事 西園寺の名推理」に出演中。NHK連続テレビ小説「わろてんか」などドラマ、映画、舞台に幅広く活躍。声優2段。英語検定、漢字検定、珠算など多数の資格を持つ。

確固たる技術 芝居と同じ



角元正燦さん（左）の説明を受ける女優の岡本玲さん（中央）、松村博峰さん（読売新聞東京本社で）＝秋本朋子撮影

第35回読売書法展

- 公募・出品規定
  - 【部門】 漢字、かな、篆刻、調和体
  - 【資格】 17歳以上（2018年4月1日現在）
  - 【出品点数】 1人1点
  - 【内容】 未発表作品に限る。臨書・模刻作品も可（ただし、調和体部門は除く。模刻の対象は没後50年を超えた作家の作品）
  - ※出品サイズ、申し込み方法、出品料など詳細は、「出品票」に同封の書類を参照するか、下記の請求先に問い合わせ
  - 【出品票請求先】 はがきに郵便番号、住所、電話番号、本名と姓号、生年月日、性別、出品部門を明記し、〒100-8055（住所不要）読売書法会事務局へ
  - ※請求締め切りは5月8日

- 会期・会場
  - <東京展> 第1会場＝国立新美術館（8月24日～9月2日 ※28日休館）、第2会場＝東京都美術館（8月23～29日）
  - <関西展> 京都市勧業館「みやこめっせ」（9月5～9日）
  - <中部展> 愛知県産業労働センター「ウインクあいち」（9月26日～10月1日）
  - <中国展> 広島県立ふくやま産業交流館「ビッグローズ」（10月28～28日）
  - <東北展> 山形美術館、山形県立文芸美術館（いずれも10月31日～11月4日）
  - <北海道展> 札幌市民ギャラリー（11月21～25日）
  - <九州展> 福岡国際センター（12月7～9日）
  - <四国展> サンメッセ香川（12月14～16日）
  - 【入場料】 一般・大学生500円（税込） ※東北展のみ600円、高校生以下無料
  - 【主催】 読売新聞社、読売書法会
  - 【問い合わせ】 読売書法会事務局（03-3216-8903） ※平日午前10時～午後5時
  - 【ホームページ】 <http://yomiuri-shohokai.com>

■特別展示「読める書への挑戦」  
読売書法会創立期の幹部ら先達の「漢字かなまじり書」や「調和体」約50点を東京展第1会場と関西展で紹介。

長年かけた書 にじむ人生

第35回読売書法展 東京で8月開幕

\* 座談会

岡本さんの書道歴を教えてください。

岡本 小学5年生から中学3年生まで書道塾に通っていました。水曜日と土曜日、毛筆と決めて、二つ上の姉に負けないように、ひたすら書いていました。私はどちらかというと毛筆の方が好きでした。マヌ目が出て自由な気がしますが、精神統一できていないと緊張感があるからだと思います。松村 私と岡本さんと同じく

徐々に自身と向き合う



角元正燦  
読売書法会常任理事

乗らない時があります。角元 感性が鋭いのが感心しました。セリフを自分で書き直して書き直すのです。岡本 はい、そうするところが多い。彼のイメージも頭に入れている。仕事柄、お礼状を出す機会が多いのですが、必ず手書きで

一本の線に森羅万象



松村博峰  
関西大学非常勤講師

角元 「書人なり」と言っていて、長年かけて作り上げられるものですね。手は同じ千文字書いても同じような調子で書ける基礎というか、職人的な技術を感じられることが醍醐味です。そこが

岡本 全部手書きのことがとてもつなげます。いいお話を聞きました。今まで書法展にはあまり行っていませんでしたが、すぐに行きたくて

ら自己表現を模索し、人生で経験した書法が深く無意識に表れて味付けが深くなります。私もこの頃になって、やっとなんかものかなと分かるような気がしてきました。松村 筆を通して古人と同じ時の流れを共有するわけですが、特に一本の線に森羅万象の深みを込めたい。むねが必要なんです。現代社会はぐに結果を求めがちですが、書は全く逆を歩いています。年月をかけて深めていく老成の芸術なのです。岡本 お芝居につながっている感じがします。今回も同じ演技ができる技術が絶対に必要です。今の私の課題でもあるので、積重ねて大事にしたいとお話をうかがって、言葉がぐく私の中に入ってきました。一冊ははるばるのよう書道と付き合っています。岡本 理念があつて筆直に台本が写経をすることがあります。ペンではなくて、絶対に筆を使います。松村 自分を見つめる手段になっているのですね。日々の営みの中に静と動があります。書は静の中の静を味わうもの

自分の考えや行動を深く願ひることができるとあります。角元 最初は上手に書けないという気持ちがあり、徐々に自分自身と向き合うような取り組み方に変わっていき、自分の世界に没頭できる人は、書を長く続けられると思います。岡本 先輩は言葉と筆を扱うプロに「後者は言葉と筆を扱うプロにしろなさい」と言われました。自分や役の思いを伝えたいはけいからな理解を深めていく。書もきっと同じではないかと思ひます。上手にか下手かではなく、書く意図を乗せられるかどうか。そういうところ書けるようになったらいいです。お二人はどのような書が好きですか。松村 世間様のめられた実行ある書に魅了されます。自分の書も、筆を演じる書と書者との接点ならぬ阿吽の呼吸を成立させるものでありたいですね。文字の品格はすぐ大事ですが、上品であるだけでなく愛されません。そこが書にあっては最要です。その隙間に魅力的なものがあると思っています。角元 書は伝承芸術だと思います。王羲之を後につく古典があります。古典のおおいを感じられる格調ある書を書きたいですね。